

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	運営理念や方針を掲示し、利用者が安心安全な生活を送れるように努めている。職員会議の際には理念方針を確認し、理念に即した目標を決めて実践に移している。	事務室内には運営理念・方針が掲示され、職員会議でその都度確認されています。毎月理念に基づいた目標を立て、職員会議において振り返りをしながら取り組みがされています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方から野菜の提供などをさせていただき、お礼に紐編みの紐をプレゼントしている。野菜の植え付けなど一緒に行っている。小中学校運動会の見学を通して、小中学生や地域の方との交流ができています。手作り雑巾をプレゼント予定。	事業所の畑に野菜の苗や花などの植え付けの際には、地域の方にも協力してもらっています。地元で収穫された野菜の提供もあり、お礼に、利用者が作ったビニールの紐編みをプレゼントされています。地域の方々との関わりを重視した、交流の取り組みがされています。	ホームページやSNS等を活用し、事業所における地域との交流行事の様子や雄大な自然環境に恵まれた利点等、事業所の様子を地域へ広く情報発信をし、利用者の拡大に繋がってことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	鬼無里地区全体に広報を作り、事業所の紹介や利用者様の活動をお知らせして、認知症の方への理解をしていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、日常生活の様子をお話しして、季節ごとの利用者の活動の様子をお便りにして見ていただいています。職員の関わる事業等にも、委員の皆様からアドバイスや意見をいただいている。	運営推進会議で話題になった課題等については、事業所内で検討し、解決策や取り組みについてステップを踏んでいけるように見直し等がされています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター職員に、運営推進会議に参加していただき、事業所の運営や利用者や職員の活動について毎回意見やアドバイスをいただいている。	市直轄の地域包括支援センター職員が、運営推進会議のメンバーとなっているため、日頃の事業運営の中での困り事等についての相談や、連携が取りやすい関係づくりが構築されています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や高齢者虐待などの研修や動画の視聴を行い、理解を深めている。職員会議では、日頃の介護の中で身体拘束にあたる行為はないか確認している。できる限り玄関の施錠は行わないようにしている。	ネットを活用した事業所内での研修や運営法人全体の研修会等に参加し、知識や理解を深めています。玄関の施錠については、時間や利用者の心身の状況等も考慮しながら、できる限り開放的な対応がとられています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての研修に参加し、職員一人ひとりが意識し、疑わしい行為が見られた場合はお互いに確認し合って虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入)	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修を受けて理解を深めている。現在日常生活自立支援や成年後見制度を必要とする方はいない。必要な方がいる場合は支援につなげたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書、重要事項説明書に沿って、内容を確認しながら時間をかけて説明し、理解していただいている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には利用者や家族が運営推進委員として参加し、意見を述べている。施設入り口に要望箱を設置している。各利用者様に担当職員を付け、面会や家族交流の際に要望や意見を聞いている。	隔月に開催している運営推進会議に家族が出席し、要望や意見等を伝える機会が設けられています。いつでも利用者や家族等から要望等の声を把握することができるように、事業所内に要望箱が設置されています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議の際は、所長や管理者、職員で意見を交わしている。所長会議や鬼無里事業所全体のセクション会議の内容を、職員皆が把握できるようにしている。年1回所長面談があり、職員一人ひとりが必要な意見や提案をしている。	毎月開催している職員会議の場において、管理職と、運営や日々の対応等に関わる意見交換がされています。法人の地域介護センター事業所長が職員会議に出席したり、各職員との個別面談も実施されているので、職員の気づきや意見等を聴く機会が設けられています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月の職員勤務状況や日常の介護現場の様子を報告し、労働条件が整うようにアドバイスをしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常に職員一人ひとりの勤務状況を確認している。必要時は本人と面談している。他事業所との合同の研修に参加するよう呼びかけ、資質や技術の向上ができるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人の合同会議で意見を交わしている。鬼無里事業所セクション会議では、各事業所の状況報告や課題に向けての検討を行っている。SNSでの広報活動を行い、他事業所の活動を参考に資質の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面談時に、本人から生い立ちや困っていることなどを時間をかけて聞き取り、不安や困っていることなど、できるだけ多く出していただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	生活歴や本人を取り巻く環境、人間関係などを聞き取り、サービス導入時の不安や困っていることなど自然体で話せるような雰囲気づくりをして、良い関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント段階で本人や家族の思いを聞き取り、入所前に利用していたサービス担当者やケアマネージャー、医療機関等と連携を図り、必要なサービスを導入するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人に残されている力を発揮し、できそうな作業を本人のペースでできるよう職員とともに行っている。食事の下ごしらえをしてもらって一緒に食事をしている。時には献立の提案をしてもらっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況をこまめに伝えている。できるだけ多く面会の機会を作ってもらい、自宅で過ごしている時のように穏やかに過ごせるよう居室内を整えてもらって必要物品をそろえていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の情報番組や広報誌を見てもらい、なじみの場所や人間関係を聞き取っている。家族のみでなく自宅近所や親せきの方の面会もしていただくことで、関係性が継続できるようにしている。家族との外出の機会を設けている。	事業所が立地している地域内で生活されていた利用者が多いため、これまでの人間関係や地域社会での関わりを十分に把握した上で、事業所近隣の馴染みの場所への外出や関わりがあった方々の面会も積極的に受け入れをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	対面での座席にすることで、お互いの顔を見ながら会話ができるようにしている。職員が間に入り、作業やレクリエーションを行い、利用者同士が家族のように、お互いがわかり合い支えられるような関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所理由により断ち切れになってしまう方もあるが、本人家族が安心して生活ができるよう、必要な情報提供や相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と関わりを深める中で、希望や意向を把握している。利用者本意を尊重してサービスに反映している。本人の意向の確認ができない場合は、行動や表情から意向をくみ取るようにしている。	日々の関わりや会話の中から、どんな思いやどんなことに関心があるのか把握できるように努めています。食事内容での希望等があった際には、メニューにも取り入れ、利用者の意向が反映されるような工夫がされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との会話や家族との面談の際に、改めて生活歴や嗜好などを聞き取り、入所前の生活を知り、施設での生活に取り入れ、支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団での1日の生活の流れはあるが、一人ひとりの生活のペースに合わせて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月行っているケース検討会では、各利用者の担当者から状況報告があり、意見を交わして必要な支援ができるよう介護計画に反映している。家族が担当者会議に出席できない場合は、電話等で意見をうかがっている。	近隣に在住の家族には、できる範囲で担当者会議への参加をお願いし、要望等を把握できるようにしています。毎月実施している検討会議において、医療や日常生活の中での情報等を踏まえた検討を重ねながら、心身の状況に応じた介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の目標を記載した記録用紙に、目標に対するケアや本人の様子を記入している。朝夕の申し送り時には情報伝達をして、より良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	診療所の往診、外出時の移動支援、緊急時の移動支援等、個々の状況に応じて対応している。緊急時は法人の車両で受診の付き添いを行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の方から季節の野菜をいただき調理している。地域の方の支援を受け、庭の畑と一緒に野菜を植えて収穫している。小中学校の運動会に参加した際は、地域の方の手を借りて移動をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地元診療所の医師による毎月の往診があり、急な体調不良時の往診や相談に対応していただいている。他の病院受診時は医療機関の医師や看護師、地域連携室の担当者に相談をして、適切な医療を受けられるようにしている。	地域内にある国保診療所の医師が主治医となり、月に1回往診診療が実施されています。今年度になり医師が交代されましたが、相談できる関係が構築されており、心身の体調に応じた相談・対応がとれる体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	地元診療所看護師に、急な体調変化について相談している。法人内の看護師や、PT(理学療法士)OT(作業療法士)に、日頃の様子を相談して適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院のCW(ケースワーカー)に日頃の生活の様子や本人の情報を送っている。家族やCW、病棟の看護師と連絡を取り、退院に向けての情報交換を行って、可能な限りグループホームでの生活が継続できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期には、十分な医療が受けられないことを入所時に説明している。協力医療機関の鬼無里診療所が24時間体制を取れず、夜間の相談もできないことから、体調が急変する前に医療機関や必要な施設への移行をお願いしている。	地域内には診療所の他に、24時間体制の医療機関がないため、重度化や終末期のケアについては限界があることを、入所時に説明して確認が得られています。実際に終末期を迎えた際には、医師や家族、事業所と相談した上で、医療機関等他の施設に移動される事例が多くなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員は常日頃から、緊急時の対応方法やAEDの正しい使い方などを学んで、緊急時のマニュアルを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や水害の対応マニュアルの確認を行い、火災年2回、水害年2回の避難訓練を行っている。地域と協定を結び、地域住民の協力体制を作っている。緊急非常時の食料を備え、停電時の発電装置の始動訓練を行っている。	地域との協定により、地元協力員2名の参加協力を得て、火災時・水害時の訓練が各2回ずつ実施されています。冬季間の事業所敷地内の除雪対策として、地元業者と雪片付けの契約を締結しているため、冬季間においてもスムーズに避難できる体制がとられています。非常食の備蓄や停電時の装置も配備されています。	

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の生活歴や人格を尊重し、職員はプライバシーを損なわないよう言葉かけに気を配ってケアにあたっている。ケース検討会では個々の対応について話し合いを行い、日頃から個人情報の保護や、服務規程等の確認を行っている。	法人内のプライバシーポリシーに基づき、毎月の検討会議において、職員が互いに気づいたことの話し合いや、排泄、入浴など各対応時における言葉かけの確認等がされています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活支援については、本人の希望や意向を尊重して同意を得てから実施している。自己表現や自己決定が困難な状況の時には、本人の表情の確認をするなど、働きかけの工夫をしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の作業やレクリエーションなど、担当職員の計画があり、提案を行ってはいるが、本人の希望をお聞きして希望に沿って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理美容の支援を行っている。起床後の洗面時は本人が髪を整えられるように、声掛けやブラシを渡すなどの支援を行っている。男性利用者は毎日髭剃りができるように支援している。季節を考慮し、着心地の良い服を職員と一緒に選んだり、アドバイスをしたりしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の意見を取り入れながら担当職員が献立を作り、職員と利用者が一緒に食事の準備を行っている。個々の好みや能力に応じて、できる作業に参加していただき楽しみな時間になっている。	職員3人で、利用者の要望を取り入れた献立づくりがされています。利用者からは「何かやることはないか?」と問われることが多く、野菜の皮むきや刻み等の作業協力や、食卓の配膳準備等で一人ひとりの力量が発揮されています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を記録し、観察考察している。個々の身体状況によって柔らかく調理したり、刻んだりすることで必要量が取れるようにしている。夏場にはスポーツドリンクの提供も行い、十分な水分を取れるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、できるだけ本人の力で口腔ケアを行ってもらっている。必要時は介助を行い、確実に口腔内の清潔を保つようにしている。毎週2回義歯洗浄剤を使用して義歯の消毒を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	各自の排泄、水分摂取量の把握をして、必要な声掛けを行っている。夜間の排泄に関しては、状況により良眠中は適宜行っている。必要に応じてポータブルトイレを使用し、本人の尿意便意に合わせた対応ができるようにしている。	一人ひとりの水分摂取量を記録し、排泄のパターンを把握した中で、生活リズムに合わせて声掛け等しながら、トイレでの排泄に向けた個別支援がされています。夜間もセンサー反応があった際にはトイレに誘導し、できる限りパットや紙パンツの使用を減らす対応がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日の食事量や水分量を把握している。排便の把握もしている。食事に野菜をたくさん取り入れ、乳製品を毎日摂取するなど、排便しやすい食事の提供を行っている。必要に応じて排便を促す薬を使用し、排便の管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	体調と本人の希望を確認した上で、入浴してもらっている。バイタルや本人の訴えを基準に行っている。本人の気が進まないときには時間帯を変えたり曜日を換えたりしながら、意向に沿って入浴できるようにしている。	家庭風呂が設置されているため、心身の状況に応じては、シャワー浴や複数での介助で実施されています。本人の意向を重視したタイミングにあわせ、支援がされています。今年度は季節湯が実施されませんでした。今後は復活させていく計画があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者個々の生活リズムを把握し、休息ができるように努めている。日中レクリエーションや作業を行うことで、適度な運動や疲労感から安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は一人ひとりの薬情を確認し、薬の目的や内容を理解している。服薬時は職員二人で確認し、確実に服薬できるようにしている。薬の変更や単発の処方については情報を共有して、体調の変化について報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中で、本人の興味のあること・できることの把握を行い、入所前からやってきたことが続けられ、楽しみな時間を持ち、役割として続けられるよう支援している。野菜の収穫、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみなど、個々の能力や興味に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症やクマ出没など、屋外に一人で出ると危険があるため、職員と一緒に外出の機会を持っている。日光浴や運動、野菜の植え付けや収穫など屋外に出る機会がある。鬼無里小中学校の運動会に出かけ地域の方との交流ができた。受診時に地域の方と会う機会があった。	事業所の立地環境から今年度はクマ出没の危険性が高く、地区内の散歩等は極力控えざるを得なかったため、敷地内の庭での体操、日光浴、お茶飲み会等で、屋外活動の機会が設定されています。状況に配慮しながら、今後は屋外への外出や活動を計画していきたいという話がありました。	自然環境に伴う動物出現問題等を十分考慮したうえで、法人内の職員や地域のボランティア等の協力を得て、所有車を活用し、利用者の希望が叶えられるような外出支援の機会を作っていくことに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人のお小遣いとして預り金を預かっている。利用者によっては本人が居室で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いでいる。本人が希望した時には、本人が話をしたい人と話せるように支援をしている。季節の手紙を出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所、食堂、居間がワンフロアとなっており、利用者が職員に声をかけやすい造りとなっている。日中はガラス窓にして屋外の景色を見たり、屋内には季節の花や壁面飾りなどをして季節感を味わってもらっている。エアコンやヒーターを使用して、利用者様にとって快適な温度を保つようにしている。	利用者の手作り作品が、共有スペースの食堂や廊下に飾られています。食堂と居間は段差のないフローリングとなっており、窓ガラスも大きく、四季折々の周りの景色が見渡せるようになっています。冬季間は暖房器具が厳重に整備されており、過ごしやすい室温に設定されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにテーブルやソファを置き、利用者間で談笑したり、一人で静かに過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では使い慣れた家具や電化製品を使い、安心して気持ちよく過ごせるようにしている。家族や本人の写真、製作品などを置き、個性のある空間を作っている。必要に応じてベッドの使用や手すりの設置を行い、安心して過ごすことができるようにしている。	各居室には、広い物入れスペースが設置されているため、室内は整理整頓されています。利用者の状況に応じて、持ち込みの少ない方には事業所で作った作品等を飾り、明るく温かい雰囲気をつくり出すように努めています。	現在居住者がいない空き居室の一部の壁に、湿気によるカビが発生している箇所があるため、清潔を維持できるような工夫をして、健康被害をもたらすことがないように対応を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口には名前プレートがあり、本人が自分の名前を確認できるようにしている。施設の所々に案内表示をして、不安や混乱を防ぐようにしている。持ち物には記名をして扱いやすいようにしている。		